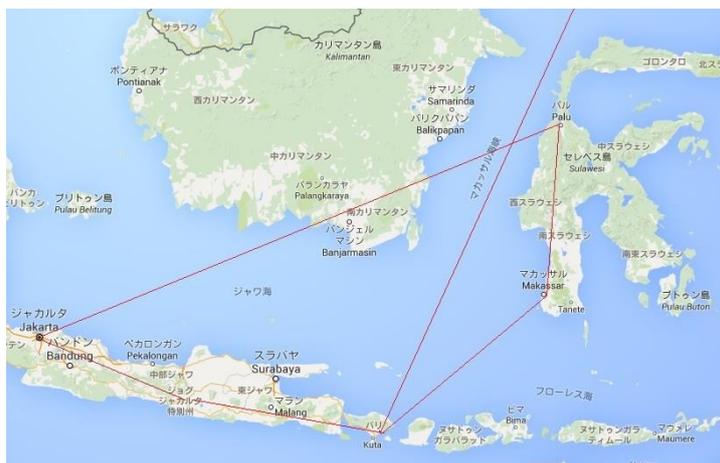


## インドネシア スラウェシ島 パル皆既日食ツアー

小山隆志

インドネシアの皆既日食ツアー参加については昨年2015年3月のスヴァールバル諸島での皆既日食を見送っていたので良いツアーがあれば参加したいと考えていました。蔦屋のプラン、阪急旅行、JTB、クラブツーリズムなどありましたが、国際航空旅行サービス(KTS)のプランの中から成田氏が既に申し込んでいた8日間の世界遺産観光付きコースに11月中旬申し込みました。このツアーはバリ島3泊、観測地のパル2泊、ジョクジャカルタ1泊、帰路の機内1泊の7泊8日間の旅です。地図で示すように成田からバリ島、Denpasar空港へ、そこからSulawesi島(セレベス島)のMakassar空港へ行き、飛行機を乗り継いで観測地のPaluまで行って帰路に世界遺産を見て来るといふ旅程ですから結構ハードで遠路の旅です。



この8日間コースの参加者は30名程でしたが、日数の短い7日間コースの人や関空からのコースの人を合わせるとKTSが借り切った観測地に集まる人は約100人の規模となります。

私は3月5日8時に成田国際空港に集合し、11時、友人たちとバリ島に向けてガルーダインドネシア航空で飛び立ちました。

約7時間半後の夕方にはDenpasar空港に着陸、入国審査の後、高温多湿の空気の中をバスでまっすぐMELIÁ BALIというホテルに入りました。簡単なブリーフィングの後、部屋に荷物を置いた後、慌ただしく遅い夕食をいただきました。時差は-1時間なので時差ボケはなく、イースター島の日食の時に知り合った西海氏の部屋で成功を祈念する軽い酒盛りをして眠りにつきました。

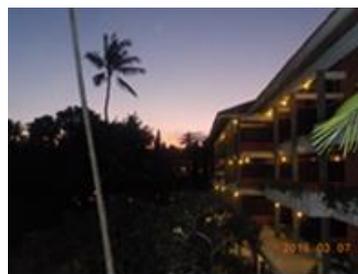
翌日6日はホテル近くの海岸沿いを30数°Cの暑さと湿気の中を散策し、途中ショッピングセンターのフードコートで昼食、その後、ホテルのプールでのスイミングと気ままな一日を過ごしました。ホテルのあるNusa Duaはリゾートホテル地区で、そこに至る道路やホテルの入り口には警備のゲートがあり、一般の人の立ち入りが規制されていたので治安は良かったと思います。



翌、7日はオプションツアーでバリ島の東隣のLembongan島への1時間半のクルーズと海辺でのアクティビティです。島は珊瑚礁の隆起でできたようで海岸には珊瑚の死骸の浸食によりできた模様がありました。

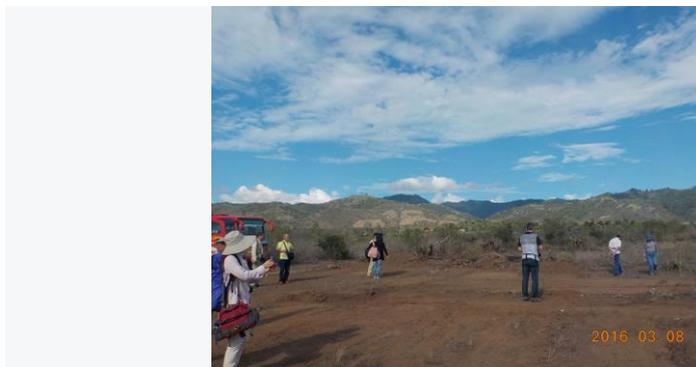
クルーズ船からの上陸時に乗り換えた小舟で沖合に出てスノーケルをつけて海中の様子を楽しみましたが、帰りの船は出航 10 分後からおよそ 25 分間は大きな高い波が次から次へと船を襲い、舳先が大きく上下に揺れ、転覆するかという恐怖で楽しい気持ちから急に奈落の底に落とされる感じでした。何とか船長の的確な操舵のお蔭で転覆もせずホテルに戻ることができ、インドネシア料理の夕食後、観測地 Palu に向けての移動の準備をして早々と就寝となりました。

翌朝、起きるとテラスから細い月が夜明け前の東の空に見えていました。（写真は前日の朝）



8 日の朝は 7 時にホテルを出発、Denpasar 空港から Sulawesi 島(セレベス島)Makassar 空港に着き、Palu 行きの乗り継ぎ便に搭乗しました。15 時過ぎに Palu 空港に着くとやっと日食があるのだという雰囲気と歓迎のムードが空港内に感じることができました。まずは観測地の下見、空港から小一時間、この

ツアーのために荒地の木々を伐採した土地はまづまづのところで「翌朝の晴天」を願わずにはいられませんでした。



観測地での感じから Palu はバリ島ほど高温多湿ではなく過ごしやすそうに思いましたが、Roa Roa Hotel(ビジネスホテル)の部屋に着くとそれは間違いだと気づきました。とにかく狭い部屋でエアコンの効きも悪く、息苦しさには閉口でした。TV では日食の特集番組を流していましたが言葉はわかりません。明朝は 4 時出発なので、夕食後 21 時過ぎにはひたすら眠る努力をしました。



翌朝 9 日 3 時 30 分、緊張の朝を迎えます。外を見ると「晴れているようです」このまま半日は維持して欲しいと思いながら、4 時からの朝食をとり 5 時にバスに乗り込みました。6 時前に着いた観測地には区画割がないので各自の観測テーマに合わせて場所を確保します。これはありがたかったです。私は水や果物のサービスがあるサポートテントに比較的近いところ

に陣取りました。夜明け前の暗い中、ビデオと鏡筒用の三脚とコンデジ用の小さな三脚をスーツケースから出してセッティング開始です。斎藤氏は最後列、成田氏は最前列とそれぞれの思惑で準備です。オーストラリアのケアンズ近郊のマリーバの時と同様、辺りからは鳥の鳴き声が聞こえ、緊張の中にも安らぎを感じました。第一接触の1時間程前に日の出となり、日が昇ったことで実際のピント合わせやフィルターの減光量のチェックなど周りの人々も準備に余念がありません。



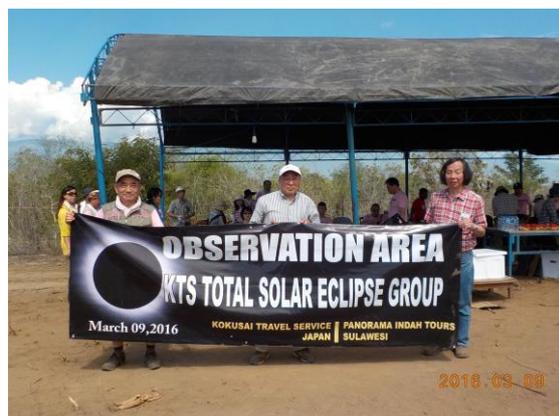
それから約1時間後、辺りが暗くなり8時37分、第二接触が始まりました。ダイヤモンドリングが見え、次にコロナが広がります。そして2分後の8時40分第

三接触のダイヤモンドリング見届け、世紀の瞬間のメインイベントは終わります。この間、天空には日食観測を妨げる雲も、風もなくステキな時間が進行しました。(写真は少し露出オーバー)



(左下の周縁部からプロミネンス)

およそ、2分11秒の皆既日食の始まりには歓声が響き、終了とともに少なからずの拍手が湧きましたが、リピーターが多いツアーということか感激の嵐のような拍手や歓声はなかったようです。それから1時間半後、10時過ぎの撤収目標時間となり、周到的な準備で観測や撮影をした人々が大急ぎでスーツケースに機材をしまう様子があちこちで見られました。もちろん成田氏もその一人です。10時30分機材や荷物をバスに積み込み、高揚した雰囲気の中、ホテルに戻ります。



この地はイスラム教の町でお酒が手に入るところは限られているようですが、ホテルの昼食会では祝賀ムードの中、インドネシア定番の BINTAM ビールで乾杯です。その後は各自のフリータイムで私は洗濯をした後に14時ホテル出発のスノーケリングのオプションツアーに参加しました。



ポイントに連れて行ってくれたボートの周りの海中ではカラフルな魚がゆると珊瑚の間を泳いでいました。ここは Palu から1時間弱の海岸で軽食に出されたバナナフライが美味しかったです。



夕食は定番ビールで再度乾杯です。大瓶の消費が多かったです。会場以外でのお酒の入手はできませんが、ほろ酔い気分です。部屋に戻ると、エアコンが動きません。高温多湿の中、洗濯物や荷物の

片付けをするのは限界です。電話でハウスキーパーを呼んだところリモコンの電池切れでした。カードキーの認識異常で部屋が開かないなど散々でした。やっと寝床に着いた23時過ぎには停電です。何のアナウンスもないまま30分近く続き、このままでは脱水症状でミイラになってしまうと本気で心配しました。

翌10日はPaluの空港を7時過ぎに飛び立ち、ジャワ島のJakarta経由でYogyakartaまで移動です。この日から帰る日までは世界遺産などの観光です。Prambanan遺跡はヒンズー教の寺院としては世界最大の規模で9世紀に建てられたとのこと。



2004年のスマトラ沖地震と津波で大きな被害を受けたこの地も日本からのJAICAの協力事業と支援で復興途中とのこと。



夕食の後、21時から隣接した会場でラーマ王子が誘拐された妻シーターを奪還する物語の伝統舞踊「RAMA YANA」を鑑賞しましたが、連日の寝不足と疲れで殆ど居眠り状態でした。

YogyakartaではSheraton Mustika Hotelに宿泊しましたが、湿気が半端ではなく、11日早朝にはインドネシア滞在中で初めての凄い雷雨を経験しましたが、テラスの扉を少し開けていただけでホテルの部屋の床が歩いていても滑るWet状態となりました。



朝食会場では他のエリアで観測をした日本人の団体も多く、隣のテーブルにいた宮城アストロサークルの人からは曇ってしまって残念なので写真を撮りたければという申し出がありました。

その後も雨が続けていたのでホテル近くの散策やプールも諦め、10時過ぎに有名な世界遺産 Borobudur 遺跡に向かいました。ここの遺跡は仏教寺院で仏教徒の王家の娘がイスラム教の王に嫁いだからイスラム教が優勢になったそうです。それ以前は仏教徒も多かったようです。



遺跡見学後は土産店に寄りながら、帰途の成田空港行の飛行機に乗るためジャワ島のジョグジャカルタ特別州の州都Yogyakartaからバリ島Denpasar空港へ移動です。

余談ですがインドネシアには約23000近くの島があるそうで、その殆どは無人島とのこと。オランダや英国、日本が統治していた時代の言葉が地名として現地語と混在して残っています。バリ島ではヒンズー教徒が多く、その他ではイスラム教徒が多く基本的にイスラムの国です。そのためかホテルなどにはお尻用のハンドシャワーが備えられています。日本の洗浄便座に比べて単純な構造ですから故障知らずの素晴らしいアイデアです。使い心地もGoodでしたよ。



この日はあの2011.3.11東日本大震災から5年です。遥かインドネシアより、その地震と津波や火災などで亡くなった人々のご冥福と復興を祈るとともに2004.12.26スマトラ沖地震で被害にあわれたインドネシアの人々の冥福と復興も祈りました。

最後にこのツアーのハプニングは停電だけではありませんでした、深夜の成田行き飛行機に搭乗する直前のX線検査でS氏が係官による周到なチェックにより、「別室にご案内」直前まで追い詰められたことをお伝えしておきます。危険物は手荷物に入れないよう、そして今回は何度もうっかりの忘れ物をして周りの人に救われましたが、遺失物にも気を付けなければいけないですね。

ツアー客を乗せたガルーダインドネシア航空のボーイング機は3月12日朝8時30分予定通りに30数℃の高温多湿の国から1℃の真冬の成田空港に無事着陸しました。今回の成功で7勝1敗、心は来年のアメリカ皆既日食に動いています。私、帰国日に風邪ひきまして・・・治療中です。